高等学校 × 芸術（音楽・美術）

芸術（音楽・美術）どこが変わる？

まず現行と次期をマーカーで比べ、そのあと現行の解説（公式PDF）を読めます。



変わる所 5項目　解説PDF 2件

10秒でいうと

Ⅰの科目で芸術の全体像や学ぶ意味を考える機会を設ける。書道は字形等を〔共通事項〕に

高校の芸術科は、音楽・美術・工芸・書道から科目を選んで学びます。次期は、どの科目でも「芸術そのもの」について考える機会を設ける方向です。Ⅰを付した科目（選択必履修科目）の最初に芸術の全体像や学ぶ意味を考え、まとめでは探究的な学習を行う例が示されています。書道は、字形などの具体的な指示を〔共通事項〕に整理する方向です。

どこが変わる？現行⇔次期（高等学校）

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強調される言葉　~~赤の取り消し線~~＝現行から消える・変わる言葉

図画工作・美術・工芸の「思考・判断・表現」と「技能」の線引き

現行

発想や構想をする段階は「思考・判断・表現」、材料や用具を使い工夫して表す段階は「技能」と位置付けている。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

発想や構想をし、**工夫して表現するまで**のつながり**全体**を「思考・判断・表現」として示す。

P212　P214

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜高等学校 芸術（音楽・美術）：どこが変わる？（マーカー比較）｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

書道の指導事項の示し方

現行

漢字仮名交じりの書・漢字の書・仮名の書と鑑賞のそれぞれの事項で、字形や全体の構成などを具体的に示している。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

〔共通事項〕で「**書を構成する要素**などの働き・関係」として整理し、学校の実態に応じて柔軟に指導できるようにする。

P219

高校芸術科で学ぶ内容

現行

選択した科目の専門に関する内容が中心で、教科目標の「芸術との関わり」が意識されにくい。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

Ⅰを付した科目の導入で芸術の全体像や学ぶ意味を考え、まとめの段階で芸術分野の**探究的な学習**を行うなど、「**芸術そのもの**」を学ぶ機会を設ける。

P217

学習評価（総括のしかた）

現行

短い題材でも3観点すべてを評価しようとして記録に残す評価だけになったり、完成作品だけで技能や思考・判断・表現を評価したりする実態がある。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

複数の題材・単元・区分で**まとめて総括的評価**をしてもよい。**形成的評価**を重視し、思考・判断・表現は**学習の過程**の中の姿でとらえる。

P221 ※現行側は本文の「現状の課題」として書かれている実態

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜高等学校 芸術（音楽・美術）：どこが変わる？（マーカー比較）｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

高校芸術科の標準単位数

現行

音楽Ⅰ～Ⅲ、美術Ⅰ～Ⅲ、工芸Ⅰ～Ⅲ、書道Ⅰ～Ⅲ　各2単位

→

次期（審議まとめの案・告示前）

同じ12科目で各**4新単位**とする案。
必履修の芸術（Ⅰの科目）は**減単不可**とすべきとされた。

P47 P80 P82 ※新単位は1単位の学習量を35コマから17コマにする単位の数え方の変更によるもので、科目名・単位数とも実質は現行と同様（P80）。減単不可はP47の「必履修教科の合計が3新単位以下となる減単は不可」による

現行の解説を読む（公式PDF）

いまの高等学校の芸術（音楽・美術）の解説です（文部科学省のPDFが新しいタブで開きます）。

PDF **芸術編 音楽編 美術編**
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 芸術編 音楽編 美術編

付録

PDF **（付録6）教科の目標，各科目の目標及び内容の系統表（高等学校芸術科）**

学習指導要領の本文

PDF **高等学校学習指導要領（平成30年告示）**
全教科の目標・内容（この教科は第2章）

もっとくわしく

芸術（音楽・美術）の変更点（くわしく） 新旧比較（全校種） 高等学校の先生へ
資料室（高等学校のほかの教科）

出典：中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）。P○ は本体PDFのページ、資料P○ は資料編のページ（クリックで該当ページが開きます）。